

口腔ケアシンポジウム 「人生の最期を支える看取りケア」

訪問歯科診療は、豊島区歯科医師会が運営する**口腔保険センター（あぜりあ歯科診療所）**の主要な事業の一つであり、必然的に看取りケアを実践するケースに遭遇します。また、近年、そのようなケースが増加傾向にあります。

平成25年1月31日、豊島区歯科医師会主催で、本館3階ホールにて、表題のシンポジウムが開催されました。（演者：地方独立行政法人 東京都健康長寿医療センター研究所 福祉と生活ケア研究員：島田千穂先生）

冒頭、生活の場で最期を看取る事の意味、介護者が気を付けるべき終末期高齢者の特徴、造設の意思決定、非患者の最期についての注意点、他の施設での看取りケア具体例、などについて講演がありました。続いて、**あぜりあ歯科・関係施設のケア・マネージャー**や、**ケース・ワーカー**等から、多数の質問やコメントが寄せられ、関心の深さを感じさせました。終末期には、糖尿病、抗癌剤、癌転移などの影響で、唾液分泌が抑制されたり、義歯が不適合になるなど、口腔のトラブルが増加します。残り少ない人生にこそ、口腔トラブルの軽減と楽しい食事が求められるのであり、**あぜりあ歯科診療所**の意義を再認識させられるシンポジウムでした。

